

報 告 事 項 4

府立高等学校再編整備方針（素案）について

平成25年 1月16日

府立高等学校再編整備方針 (素案)

平成 25 年 1 月

大阪府教育委員会

目 次

1. 基本的な考え方	1
2. 対象となる期間	1
3. 教育内容の充実	1
(1) 多様なニーズに応える高校	1
(2) セーフティネットの役割を担う高校	3
4. 学校の配置	4
(1) 公立高校の総募集定員	4
(2) 個別校についての精査	7
5. 今後の進め方	7
(1) 学校数の精査	7
(2) 年次計画の策定	7
(3) 方針の見直し	7

1. 基本的な考え方

府教育委員会においては、これまで、「教育改革プログラム(平成 11 年)」に基づき、府立高校の特色づくりとあわせた再編整備を推進してきた。また、その成果と課題を踏まえ、「『大阪の教育力』向上プラン(平成 21 年)」を策定し、府立高校の一層の特色化を進め、「入れる学校」から「入りたい学校」、さらには「入ってよかった学校」づくりに取り組んできた。

その中で、府立高校全体の教育の質の向上をめざし、「卓越性」と「公平性」を高水準で両立させるよう努めてきた。さらに、「多様性」は、これまで大阪の教育が大切にしてきたことであり、府立高校の強みである。

今後もこれらの取組みを継承するとともに、今後の生徒数減少を見据え、これまでの特色づくりの検証や社会のニーズを踏まえた教育内容の充実と、就学機会の確保を前提とした効果的かつ効率的な学校の配置を両輪とし、活力ある学校づくりをめざした再編整備を推進する。

2. 対象となる期間

本方針の対象期間は、教育振興基本計画の計画期間である平成 25 年度から平成 34 年度までとする。

3. 教育内容の充実

府立高校の再編整備にあたっては、活力ある学校づくりを進める観点から、府立高等学校の将来像検討専門部会の報告書を踏まえ、教育内容の充実策を講じていく。

(1) 多様なニーズに応える高校

① グローバルリーダーズハイスクール(進学指導特色校)

毎年、外部有識者によるパフォーマンス評価を行い、検証・改善の PDCA サイクルによる学校運営を行うとともに、総合的評価に基づき、指定校の入替や新たな指定を含めて、3年ごとに再指定する制度を構築し、取組みの活性化を図る。その際には、文理学科の拡充についても検討する。

② 普通科高校

各校の特色づくりが進む一方で、近年、一部の学校において志願割れが生じるなど、生徒・保護者の期待に必ずしも添えきれていない現状もあることから、各校が「こういう人材を育てる」というそれぞれの使命(ミッション)をより明確にしたうえで、さらなる特色づくりや魅力づくりに取り組んでいく。

取組みの推進にあたっては、教育内容を充実するため、教育方法の工夫と教育課程の改善に取り組むとともに、学校の特色や取組み状況に応じて、新たな専門コースを設置する。

③ 普通科総合選択制高校

各校の取組みを生徒の自己実現に効果的につなげていくため、生徒によるエリア選択の傾向(普通科系・実学系)や、エリア学習に対する生徒の満足度、卒業後の進路状況(進路多様型・進学型)といった各校それぞれの特徴を踏まえ、その教育効果がいっそう発揮されるよう、総合学科や普通科専門コース設置校等への改編を順次進める。

④ 専門高校・専門学科

工科高校では、社会のニーズに応じた設備の更新・整備を進めるとともに、高度な職業資格取得に向けた教育内容の充実・教育方法の改善を図り、生徒に基礎・基本に加え最新の技術を学ばせる。また、工業技術を学ぶ工学系大学への接続に対応していくため、進学に対応できるカリキュラムを備えた進学「系・専科」を設置する。

農業高校では、大阪の都市農業を担う人材育成の観点から、栽培または飼育にとどまらず、経営の視点も含めて、加工や食品開発、また、流通や販売なども学ぶ、「農」と「食」を繋ぐ新たな学びを創出するカリキュラムを検討する。また、進学する生徒への対応として、基礎的・基本的な学習を充実する。

国際系の学科(国際教養科・国際文化科・国際科)に関しては、国際的な視野とコミュニケーション能力を持った人材を育成するため、教育課程の充実を図るとともに、中学生・保護者にとってのわかりやすさという観点から、学科の統一等について検討する。

コミュニケーション、防災、環境など、社会のニーズに対応した新たな学科については、設置の必要性を検討する。

⑤ 総合学科高校

これまでの成果を踏まえ、生徒の実態や社会のニーズにいっそう対応した教育内容となるよう検証を行い、必要に応じて系列の見直しを図るなど、さらなる充実に取り組む。

⑥ 教育センター附属高校

大阪府教育センター附属高等学校については、活用・探究型学習の授業である「探究ナビ」を核にした文理融合型の教育課程をいっそう充実させることにより、PISA 型学力の育成を主軸とした先進的な教育を推進する。

(2) セーフティネットの役割を担う高校

① エンパワメントスクール(仮称)

学び直しの支援を実践してきた学校におけるこれまでの成果や課題等を踏まえ、クリエイティブスクールの設置理念を発展的に継承する学校として、新たに「エンパワメントスクール(仮称)」を設置する。

エンパワメントスクール(仮称)においては、学習面でつまづいている生徒に対し、「学び直し」と「自立」を支援するための学習環境と相談体制を整備するとともに、不登校等への対応をより柔軟に行うため、履修形態や教育方法を工夫する。

② 夜間定時制の課程

近年、昼間の高校への進学率に影響を受けて志願倍率が変化している中で、一部の学校において、小規模化や近隣校との競合などの課題が生じていることから、今後の選抜環境の変化を慎重に見守りながら、必要に応じて対応方策を検討する。

③ 通信制の課程

府内唯一の通信制の課程を設置する桃谷高校は、多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部と夜間課程のⅢ部を併置しているため、施設・設備の使用に制約がある一方で、「昼間部」の志願倍率は、ここ数年高く推移し、志願者ニーズに十分応えられていないことから、新校設置の検討も含め、通信制の課程の充実を図る。

4. 学校の配置

府立高校は、教育の普及及び機会均等を図りつつ、効果的かつ効率的に配置する必要がある。

そのため、今後の昼間の公立高校における総募集定員（以下「公立高校の総募集定員」という。）を検討したうえで、府立高校において必要な募集定員を確保するとともに、各学校の魅力や特色をさらに高め、府立高校が担うべき役割を確実に果たしていく観点から、個別校についての精査を行うこととする。

(1) 公立高校の総募集定員

公立高校の総募集定員については、府内公立中学校卒業生数（以下「府内中卒者数」という。）の将来推計をもとに、志願動向の変化を見定めながら検討する必要がある。

① 府内中卒者数の推計

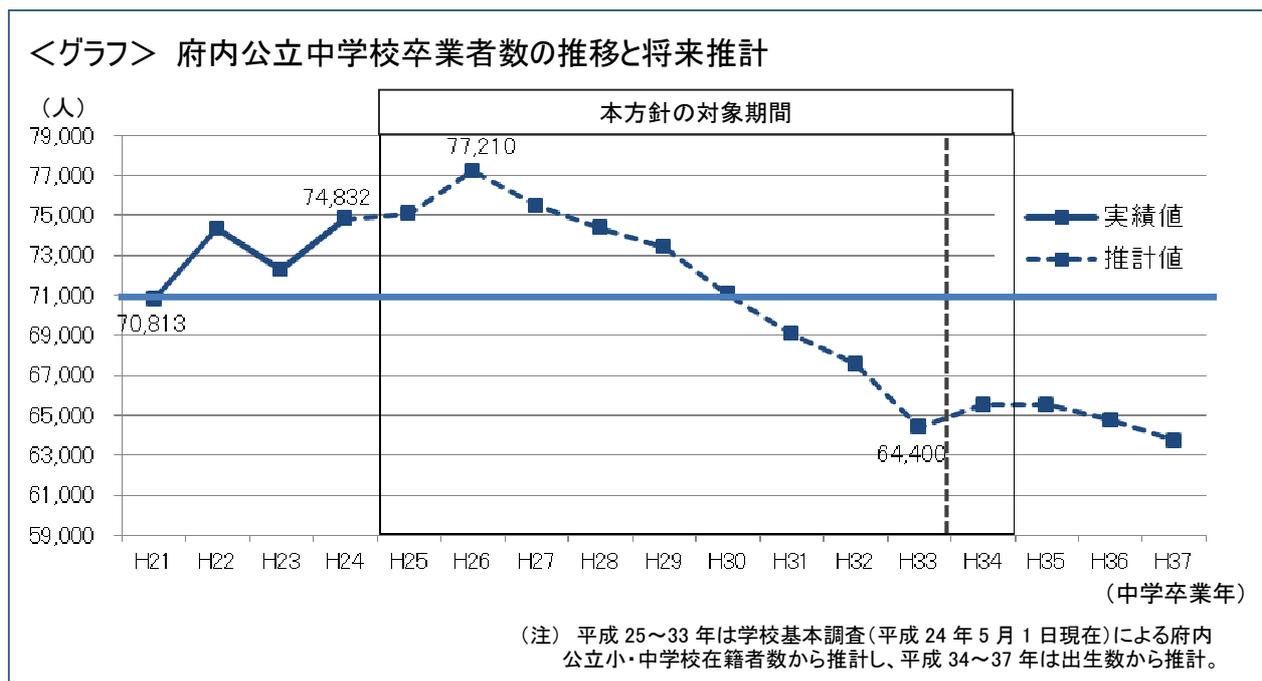
府内中卒者数については、昭和 62 年にピーク（約 14 万 8 千人）を迎えた後、減少を続け、平成 21 年には、ピーク時の 50% を下回る約 7 万 8 千人となった。

現在、平成 26 年に向けて増加傾向にあるが、公立小・中学校在籍者数に基づく推計では、その後再び減少に転じ、平成 30 年には平成 21 年と同レベルとなり、その後、平成 33 年まで引き続き減少していく見込みである。

現行の通学区域別に見ると、地域によって、府内中卒者数の減少傾向には差がある。

平成 34 年以降については、現時点で公立小・中学校在籍者数による推計はできないものの、出生数の状況から見ると、生徒数の減少傾向は、一時的に下げ止まる可能性がある。

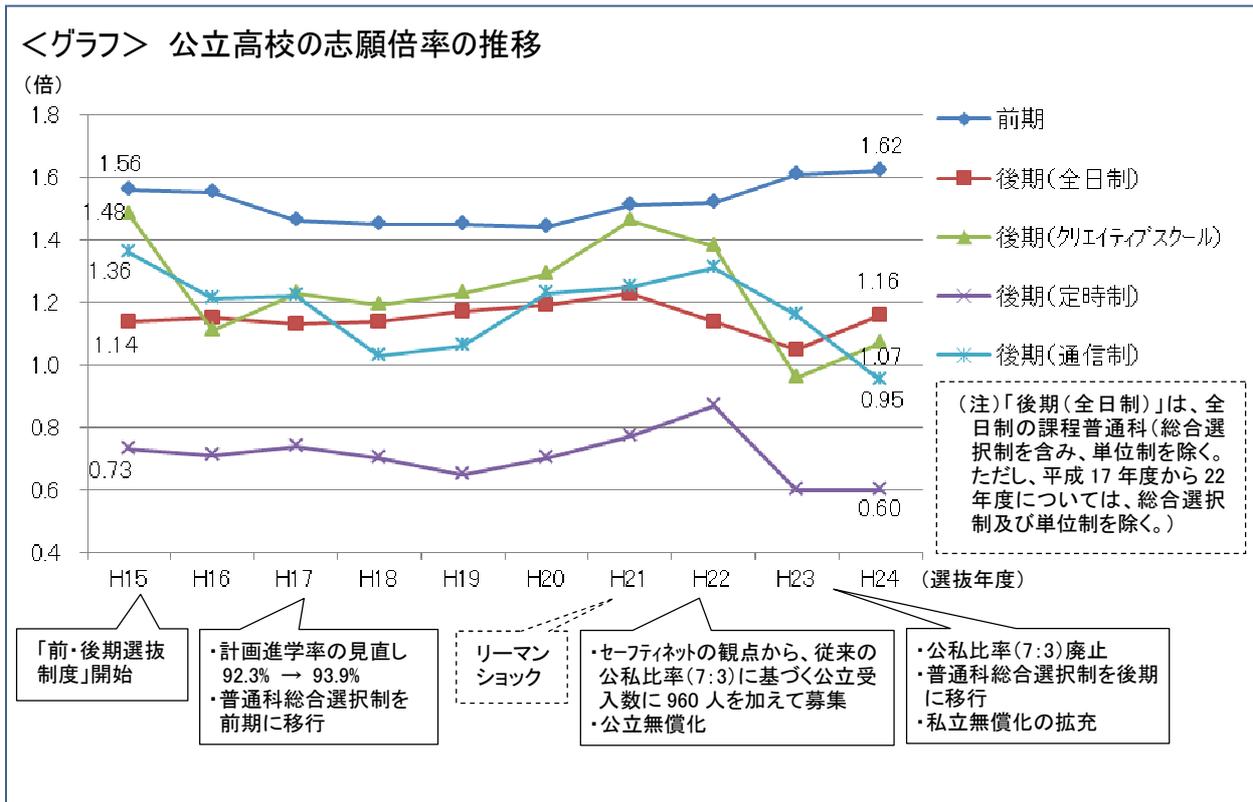
したがって、今後の府内中卒者数の減少については、本方針の対象期間中の推移とともに、その後の見通しも踏まえながら、長期的な傾向を見極めることとする。



② 志願動向の変化

近年、選抜制度の変更に加え、経済情勢の変化や高校の授業料無償化施策の実施等の影響を受け、志願倍率が変動してきた。

今後、高校の授業料無償化施策の見直しが行われた場合には、志願動向に大きな影響を与えることが予想される。あわせて、通学区域の見直しや、高校の広域自治体への一元化も予定されていることから、志願動向の変化予測については、これらの不確定要素の動向を慎重に見定める必要がある。



③ 公立高校の総募集定員の試算

府内の昼間の高校の募集定員は、公私トータルで府内進学予定者数を上回る募集枠を確保できるよう、公立、私立それぞれにおいて設定することとしており、就学セーフティネットの観点から、公立高校全体として、生徒の受入れに必要な数を確保できるよう、府立高校の募集定員を設定する必要がある。

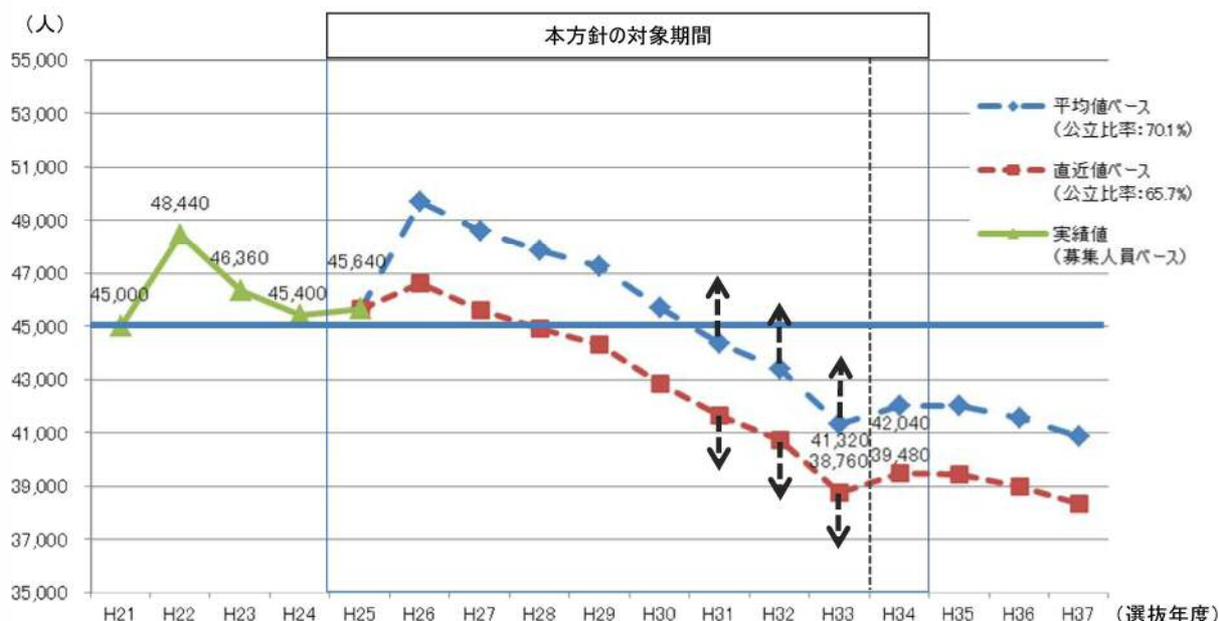
公立高校の総募集定員の試算にあたっては、教育改革プログラム(平成11年)等に基づく再編整備計画の完成年度であり、リーマンショック等、今般の経済状況悪化の影響を受けていない「平成21年度選抜の受入れ計画数 45,000人(1,125学級)」を基準とする。

公私トータルの募集定員に占める「公立受入比率」については、今後の選抜環境に影響する多くの不確定要素があることを踏まえ、平成17年度選抜(昼間の高校への計画進学率を現行の93.9%に改正した年度)以降における平均値「70.1%」と、直近の実績値である平成24年度選抜の「65.7%」の2つの値を用い、それぞれの場合について試算した。

平成34年以降は出生数による推計であり、公立小・中学校在籍者数による推計に比べると精度が低くなるが、平成34年度時点の公立高校の総募集定員については、39,480～42,040人(987～1,051学級相当)の範囲となり、平成21年度比で▲2,960～▲5,520人(▲74～▲138学級相当)と試算される。

選抜環境に影響を与える多くの不確定要素があるため、上記の範囲についてはさらに上下に変動する可能性があることから、今後の府立高校の募集定員については、この幅をもった試算をもとに慎重に検討する。

<グラフ> 公立高校の総募集定員の試算



(注) 公立高校の総募集定員については、以下の①～③の手順で推計

- ① 「公立中学校卒業者数(推計)」×「計画進学率(93.9%)」＝「進学者総数」
- ② 「進学者総数」－「他府県等への進学者(過去実績平均)」＝「府内進学予定者数」
- ③ 「府内進学予定者数」×「公立受入比率」＋「他府県等からの進学者(過去実績平均)」
＝「公立高校の総募集定員」

(2) 個別校についての精査

個別校の精査にあたっては、活力ある学校づくりをめざして府立高校の再編整備を推進するという観点から、すべての高校を対象に、学校の特色や地域の特性、志願状況を踏まえて配置のあり方を検討する。

学校配置の地域バランスについては、現在の通学区域を参考にするなど、一定の地域単位で検討する。

① 学校の特色

各学校の特色については、教育課程や教育活動の特色とあわせて、その学校の役割・使命が十分に果たしているかどうかを精査する。

② 地域の特性

地域の特性については、公共交通機関の整備状況や、高校の設置状況、地域振興における高校の位置づけ等を勘案する。

③ 志願状況

「大阪府立学校条例」第2条第2項の「入学を志願する者の数が三年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善する見込みがないと認められるものは、再編整備の対象とする。」との規定に基づき、3年連続で志願者数が定員に満たない高校については、改善の見込みを踏まえて精査する。

なお、改善の見込みを判断する指標や基準については、対象校が生じる可能性のある平成27年度に向けて検討していく。

5. 今後の進め方

(1) 学校数の精査

公立高校の総募集定員の試算を踏まえ、今後、府立高校の学校数を精査するが、その際には、設置する学科や教育課程、教育活動、施設条件等を勘案し、学校・学級の規模を定める必要がある。全日制普通科における募集学級数については、6～8学級を基本としながら、学校や地域の実情等に応じて柔軟に設定する。

(2) 年次計画の策定

本方針を踏まえ、平成26年度から平成30年度までの5年間に行う教育内容の充実と学校の配置に係る再編整備の年次計画を、平成25年度中を目途に策定する。

再編整備の対象校については、受検者に与える影響を考慮し、実施予定の前々年度に公表する。

(3) 方針の見直し

再編整備の年次計画策定以降、志願動向の大きな変化や、選抜環境に影響する施策の変更等があった場合については、必要に応じて、本方針を改定する。

府立高等学校の現状

目次

1. 府立高等学校の現状	1
2. 多様なニーズに応える高校	2
(1) グローバルリーダーズハイスクール(進学指導特色校)	2
(2) 普通科高校	3
(3) 普通科総合選択制高校	4
(4) 専門高校・専門学科	5
(5) 総合学科高校	6
(6) 教育センター附属高校	7
3. セーフティネットの役割を担う高校	8
(1) クリエイティブスクール	8
(2) 夜間定時制の課程	9
(3) 通信制の課程	10

1. 府立高等学校の現状(平成 24 年度)

学校のタイプ			概要
	普通科高校 84 校 (大和川(募集停止)を含む。)		普通科目を中心に幅広く学び、広い知識、教養、柔軟な思考力を養う。 (普通科目…国語・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・芸術・外国語・家庭・情報)
	専門学科併置 20 校	文理学科 10 校	人文科学・社会科学・自然科学の各領域で探究的・専門的に学ぶ。
		国際教養科 6 校	語学や世界の国々の文化などについて専門的に学ぶ。
		体育科 2 校	体育やスポーツ・トレーニングスキルなどについて専門的に学ぶ。
		芸能文化科 1 校	日本の芸能や文化、放送技術、演劇などについて専門的に学ぶ。
音楽科 1 校	器楽や声楽、伝統音楽などについて専門的に学ぶ。		
昼間の高校	普通科単位制高校	4 校	全日制の時間帯で自分で学習計画を立て、自らの学習ペースに応じて学ぶ。
	教育センター 附属高校	1 校	学力向上、キャリア教育など、大阪の教育課題を踏まえた「ナビゲーションスクール」として「附属ならではの」学びを広く発信する。 ※学校設定科目「探究ナビ」「宇宙講座」
	普通科総合 選択制高校	19 校	内容的に関連性のある教科・科目で構成される科目群(エリア)を選択し、指定科目や自由選択科目により、興味・関心や進路希望に応じて学ぶ。
	総合学科高校	10 校	普通科科目と専門科目からなる多くの選択科目から、興味・関心や進路希望に応じて学ぶ。選択科目を、関連する内容ごとに「系列」で分類し、科目選択のめやすとしている。
139 校	専門高校	工科高校 9 校	専門分野の知識・技術・技能の深化を希望する場合と、高度な技術を学ぶための大学等への進学を希望する場合に大別し、能力・適性、進路希望に合わせて専門分野の「系・専科」を選択する。
		農業高校 2 校	バイオ・花卉園芸・環境緑化・畜産・農業技術・食品加工などを専門的に学ぶ。
		国際・科学高校 3 校	ICT 機器や外国人指導員の活用による外国語学習や、実験・実習重視の理数科目の授業により、探究力育成をめざして専門的に学ぶ。
		総合造形高校 1 校	美術・工芸・デザイン・造形教養を専門的に学ぶ。
クリエイティブ スクール	6 校	多部制単位制普通科 2 校 全日制総合学科 4 校	学ぶ時間帯が選択可能(1～8限)で多様な選択科目の中から、自らの学習ペースに応じて学ぶ。
夜間定時制高校	15 校	普通科 7 校 総合学科 8 校	夜間の時間帯に、自らの学習ペースに応じて学ぶ。通信科目・土曜開講・資格取得等を活用することにより、3 年で卒業も可能。
通信制高校	1 校		提出レポートの添削指導と週数回登校するスクーリングで学ぶ。
連携型中高一貫校	2 校	総合学科 1 校 普通科 1 校	地域で学び・育ち、地域を支え、次代を担う生徒をはぐむ授業や部活動など、教員・生徒間の交流を積極的に進める。

2. 多様なニーズに応える高校

(1) グローバルリーダーズハイスクール(進学指導特色校)

グローバルリーダーズハイスクール(進学指導特色校)については、知識基盤社会をリードする世界的視野を持った人材を育成することを目的として、平成23年度に府立高校10校を指定し、文理学科を併置した。

4つの評価基準(確かな学力、豊かな感性の育成、高い志のはぐくみ、教員の指導力向上)に基づき、10校が協働と切磋琢磨しながら、特色ある教育活動に取り組んでいる。

<主な取組み>

○GLHS 合同発表会

H24.2 開催。生徒800名が参加。

楠本祐一外務省大使の基調講演と各校代表による研究発表

○京都大学との連携

H23.11のキャンパスガイドに生徒600名が参加し、大学の講義や研究に触れる機会を設定。

H24.2に連携協定を締結。(大阪大学ともH24.7に連携協定締結)

○アルバータ大学(カナダ)生徒派遣

2か年続けて各校代表生徒1名を派遣。最終日には研修成果を全員が英語でプレゼン。

○科学系オリンピック対策合同勉強会

数・生・化分野あわせて7回実施。全国コンクールに数多く入賞。

○授業力向上研修

難関大学を志望する生徒の指導のための集中研修を5科目(国・数・世史・日史・物)で計5回実施。

<指定校>

北野、豊中、茨木、大手前、四條畷、高津、天王寺、生野、三国丘、岸和田

<検証>

「評価委員会」において年度ごとにAA・A・B・Cの4段階で取組を評価。

H23 評価結果は、各校4項目計40項目中、AA:12、A:22、B:6、C:なし。

(2) 普通科高校

普通科高校で、国際教養科などの専門学科を併置する学校(20校)や、音楽・保育などの専門コースを設置する学校(28校)も増え、各校の特色に応じた多様な教育課程となっている。
 各校の特色づくりが進む一方で、近年、一部の学校において志願割れが生じるなど、生徒・保護者の期待に必ずしも添えきれていない現状もある。

<普通科専門コースの設置状況(平成24年度)>

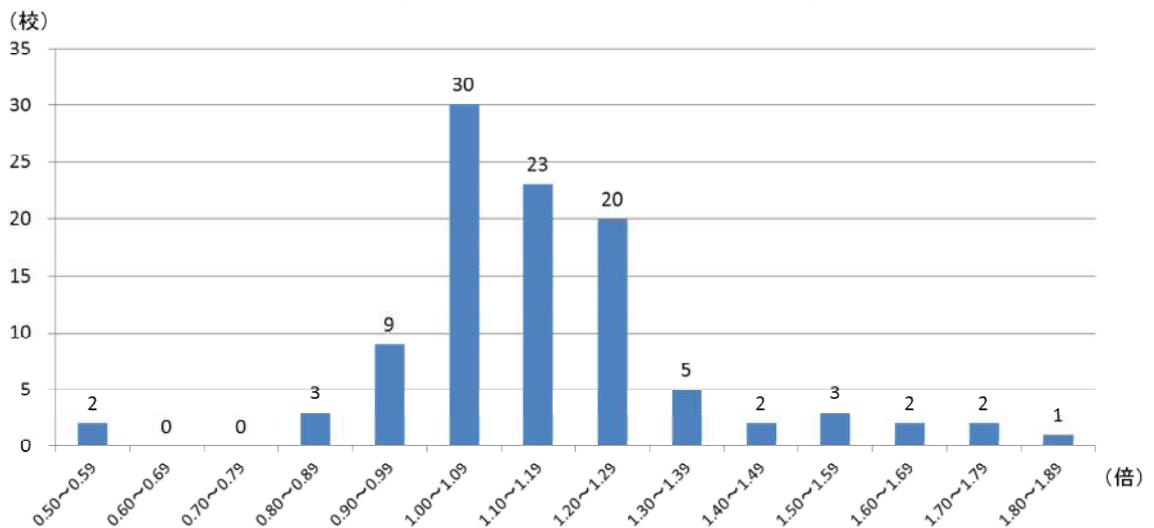
設置年度	学校名	コース名	設置年度	学校名	コース名
平成13年度	池田北	音楽	平成23年度	島本	保育
	平野	環境・人間		吹田	こども未来
平成14年度	岬	海洋		枚方津田	英語専門
平成16年度	岬	情報		交野	理数専門
		福祉			英語専門
平成18年度	阿武野	スポーツ		長尾	人文ステップアップ
	岸和田	理数 ⇒文理学科に移行		門真西	文化コミュニケーション
		デュアル ⇒デュアル総合学科に移行(H25～)		阪南	アジア太平洋文化
	布施北	SS(スーパーサイエンス) ⇒文理学科に移行		福泉	環境科学 国際文化
平成19年度	久米田	理数		信太	スポーツ科学
		体育	高槻北	教志	
平成22年度	北淀	造形	平成24年度	芥川	グローバル
	泉尾	アクティブスポーツ		河南	エスペランサ
	茨田	コミュニケーション		東百舌鳥	看護医療
	寝屋川	グローバルコミュニケーション		泉大津	情報活用
		グローバルサイエンス			
	八尾	アドバンス・教育			
	美原	体育			
	富田林	Human Development			
堺西	体育・芸術・創造表現				

<専門コースの例>

- ・池田北高校(音楽) H13設置。「音楽理論」「ソルフェージュ」等の専門コース科目を設定。大阪音楽大学との高大連携、全校生徒による「芸術発表会」、地元の小中学校との連携コンサートを実施。
- ・平野高校(環境・人間) H13設置。「社会福祉基礎」等の専門科目を設定。ピオトーブでの実験・実習や福祉施設や幼稚園との交流事業を実施。
- ・堺西高校(体育・芸術・創造表現) H22設置。「スポーツ概論」「演奏研究」等の専門コース科目を設定。体育や芸術を通じた自分表現力の育成と体育・芸術系への進路選択の幅の拡大をめざす。
- ・枚方津田高校(英語専門) H23設置。「英語速読」「国際理解」等の専門コース科目を設定。1年次での英検受験生徒の増加がみられる。
- ・高槻北高校(教志) H24設置。「教志入門」「授業研究」等の専門コース科目を設定。大学教員を招いた講義や、保育園、幼、小、中学校などの教育現場の見学や体験を予定している。

<要件> 専門教科・科目を12単位以上設定

<平成24年度 府立高校全日制の課程普通科(単位制を除く)の後期選抜志願倍率の分布(102校)>



※大阪府教育委員会調べ

(3) 普通科総合選択制高校

普通科総合選択制高校は、普通科の枠組みの中で多くの選択科目を設定し、基礎学力を重視しながら生徒一人ひとりの興味・関心にあった学習活動を展開し、進路実現の力をはぐくむことを目的としているが、その特徴や他の学科等との違いが十分に浸透していないという状況から、選抜制度の変更等の影響を受けて、志願倍率は大きく変動してきた。

学校によって生徒の進路の状況が多様であることから、各校の取組みを効果的に生徒の自己実現につなげていく必要がある。

■ 志願倍率の推移 ■

○高い志願倍率(H20～22) : 1.5倍前後

○後期選抜移行後、普通科平均を下回る : 0.90倍(H23)、1.07倍(H24)

■ 部活動加入率 ■

○H18→23 : 47.8% → 48.8%

■ 中退率 ■

○H18→22 : 3.9% → 1.6%

■ 進路状況 ■

○H18→22 : 「大学」の減少 (37.8% → 32.4%)

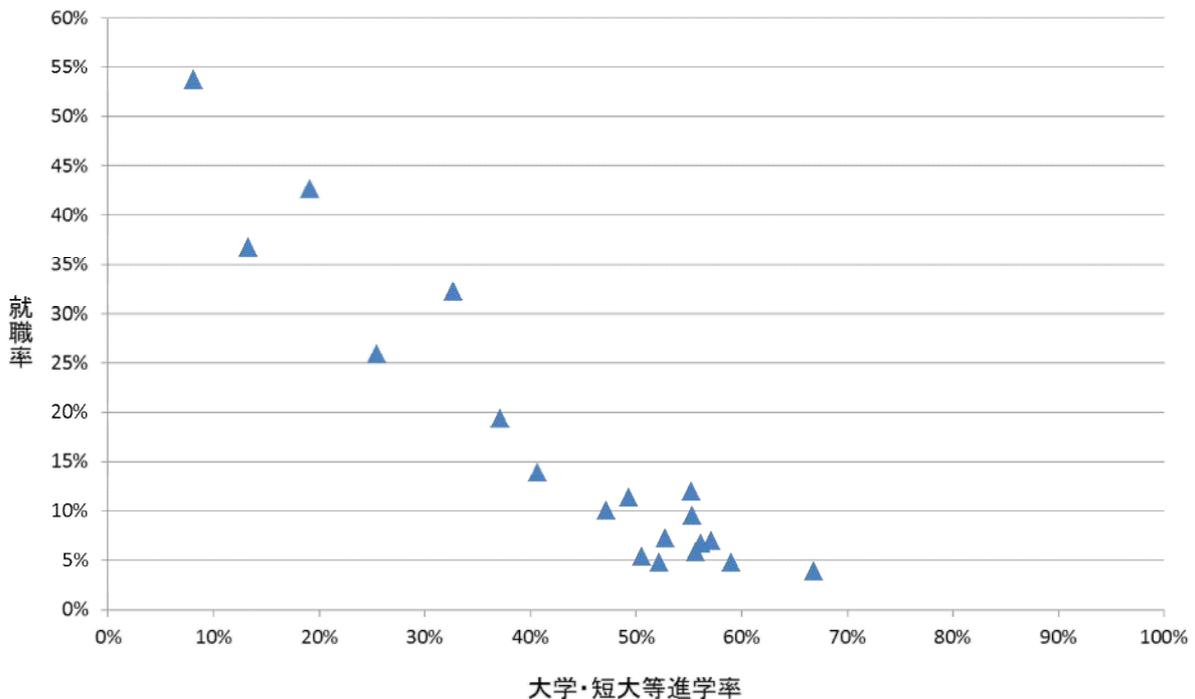
「短大」の減少 (18.1% → 11.6%)

「専門学校等」の増加 (27.9% → 29.9%)

「就職」の増加 (8.1% → 15.0%)

進路未定者を含む「その他」の増加 (8.0% → 11.2%)

< 普通科総合選択制高校における学校別進路状況 >



※平成24年3月卒業

※大阪府教育委員会調べ

(4) 専門高校・専門学科

専門高校及び専門学科においては、社会の変化や産業界から求められる知識・技術の水準を視野に入れながら、将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本の教育に重点を置くとともに、キャリア教育の充実を図り、自ら学ぶ意欲や社会・経済の変化に主体的に対応できる力を身に付けるための専門教育を行っている。

専門学科の多くは、ここ数年、一定以上の志願倍率を維持しており、中学生・保護者からも評価されていると考えられる。

<工科高校・農業高校の取組み>

学校名	① 茨木工科	② 淀川工科	③ 西野田工科	④ 今宮工科	⑤ 城東工科	⑥ 布施工科
特色	○機械 (生産技術専科等)	○機械 (機械設計専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○機械 (生産技術専科等)
	○電気 (電子情報通信専科等)	○電気 (電子情報通信専科等)	○電気 (電気技術専科等)	○電気 (電気技術専科等)	○電気 (電子情報通信専科等)	○電気 (電気技術専科等)
	○環境化学システム	○メカトロニクス	○建築都市工学 ○工業デザイン	○建築 ○グラフィックデザイン	○メカトロニクス	○建築設備
実績	・高校生ものづくりコンテスト全国入賞(化学分析、電気工事)	・メカトロニクス技術教育で大阪のリーダーを育成	・屋上ピオトープなど住空間づくりで実績	・技能士2級など高度技術の資格取得で有数の実績	・人にやさしいユニバーサルデザインのものづくり	・「ものづくりの町東大阪」を担う人材を供給
		・ロボカップ世界大会で優勝	・巨大イルミネーション(西野田ルミナリエ)づくりで地域貢献	・大学へも多数進学	・手話ロボットの開発など生活を支えるロボット活用技術	・建築配管技術で技能オリンピックをめざす
人材育成の方向性	・バイオ技術 ・マイコン制御技術	・メカトロニクス技術	・都市工学技術 ・機械設計加工技術	・高度加工技術 ・印刷デザイン	・ユニバーサルデザイン ・ロボット制御技術	・高度加工技術 ・住宅設備技術

学校名	⑦ 藤井寺工科	⑧ 堺工科	⑨ 佐野工科	⑩ 園芸	⑪ 農芸
特色	○機械 (機械設計専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○機械 (機械技術専科等)	○環境緑化	○ハイテク農芸
	○電気 (電子情報通信専科等)	○電気 (電子制御専科等)	○電気 (電気技術専科等)	○バイオサイエンス	○食品加工
	○メカトロニクス	○環境化学システム	○テキスタイル	○フラワーファクトリ	○資源動物
実績	・電気工事士や電気工事施工のための資格取得数で有数の実績	・「刃物づくり」など伝統技術を活かした金属加工技術の習得	・新素材(宝石染め繊維など)や繊維製品デザインの研究開発	・バイオでササユリの新種の開発	・企業と共同開発した「農芸パーク」を商標登録
	・企業と連携して2足歩行ロボットを研究	・リサイクル燃料製造装置の開発	・竹炭製造装置開発などものづくり教育で起業家教育	・高校生で技能五輪出場(造園部門)	・ふれあい移動動物園で地域貢献
人材育成の方向性	・電気制御技術 ・メカトロニクス技術	・化学分析技術 ・工程管理技術	・新素材開発技術 ・製品開発力	・バイオカワジニ技術 ・栽培技術 ・庭園緑化技術	・食品加工技術 ・畜産飼育技術

<国際系高校の現状>

	国際教養科	国際文化科 (国際・科学高校)	国際科 (グローバル科)
設置校	箕面、旭、枚方、花園、長野、佐野	住吉、千里、泉北	和泉(H25～)
学科の設置形態	普通科と併置	総合科学科と併置	普通科と併置
学科の目標	世界の国々の文化や伝統を理解し尊重する態度を育てるとともに、コミュニケーション能力を習得させ、国際社会で活躍するにふさわしい基礎的素養を身に付けさせる。	豊かな国際感覚や確かな国際理解の下、コミュニケーション能力やプレゼンテーションの力を身に付けさせ、国際的な相互協力関係が進展する現代の社会と文化について学び、考える力を育てる。	国際社会における日本の役割を理解し、世界の平和と安定に寄与する態度を育てるとともに、高度な英語運用能力を身に付けさせ、グローバル社会で活躍する力を育む。
教育課程	★国際理解教育(多文化理解教育)を充実 ・外国語に関する科目(英語、韓国・朝鮮語、中国語、フランス語、スペイン語等)を学習		★英語に特化した専門教育を充実 ・英語に関する科目を学習
特色ある取組	・語学や情報活用の能力を高めるために、ICT機器を活用 ・留学・語学研修・海外スタディーツアー等の海外における学習機会を充実 ・海外帰国生徒・留学生の積極的な受け入れ		

(5) 総合学科高校

総合学科高校は、普通科目と専門科目の両方にわたって多くの選択科目を設定し、生徒自らが科目選択をしていく中で、自分の適性や進路を見つめていく力をはぐむ学校として設置している。

ここ数年、総合学科の平均志願倍率は 1.5 倍前後と高倍率で推移しており、生徒を対象としたアンケートの結果からも、教育内容に関する満足度の高さがうかがえる。

府立高校の総合学科においては、全国に誇るべき実践も数多くあり、生徒の進路実現の状況等においても、その役割を果たしていると考えられる。

■ 志願倍率の推移 ■

○高い志願倍率(H20～24) ⇒ 平均 1.5 倍前後

○高い女子割合(H19→23) ⇒ 入学者の 66.2% → 67.8%

■ 部活動加入率 ■

○H18→23 : 48.0% → 61.9%

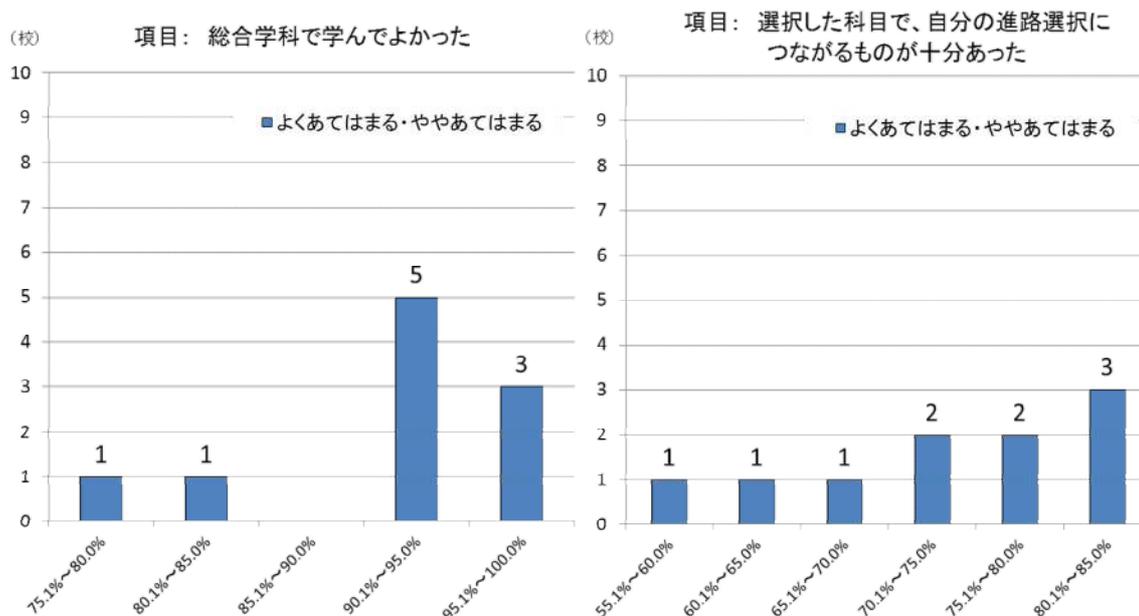
■ 中退率 ■

○H18→22 : 2.6% → 1.2%

■ 進路状況 ■

○H18→22 : 「大学」の増加	(28.1% → 36.2%)
「短大」の減少	(13.7% → 11.2%)
「専門学校等」の増加	(25.5% → 28.5%)
「就職」の減少	(16.4% → 13.1%)
進路未定者を含む「その他」の減少	(16.3% → 11.0%)

<総合学科高校における満足度アンケートの結果>



※対象：府立高校全日制の課程総合学科(クリエイティブスクールを除く。)
(平成21～23年度の平均値)

※大阪府教育委員会調べ

(6) 教育センター附属高校

大阪府教育センター附属高等学校については、子どもたちの学力向上をはじめとした大阪府における様々な教育課題を解決するため、先導的な実践・研究を展開し、その成果を府内に普及する「ナビゲーションスクール」として、平成 23 年度に開校した。

大阪の次代を担う人材の育成を念頭に、大阪府教育センターをはじめ大学や外部機関との連携のもと、学校外の教育資源を活用した質の高い授業づくりに取り組んでいる。

<主な取り組み>

■附属ならではの特色ある授業(新たな学びの創造)

- 探究ナビ
 - ・キャリア教育の柱
 - ・コミュニケーション能力の育成
- すべての生徒にとってわかりやすい授業づくり
 - ・ICT の効果的な活用
 - ・少人数及び習熟度別指導の推進
- 教育センターや外部機関と協働・連携した授業づくり
 - ・連携先:大阪府立大学、JAXA、JICA、市立博物館等

■人材育成と授業改善

- パワーアップ24(校内自主研修会:月1回)
 - ・ベテラン教員が教職経験年数の少ない教員を指導
- 授業研究会(各学期2回)
 - ・校内全体での授業研究の推進
- 指導教諭の活用
 - ・教育相談事例研究会
 - ・高等学校教育課程説明会
 - ・初任者研修等での指導助言
- 授業改善に向けた授業評価の活用

3. セーフティネットの役割を担う高校

(1) クリエイティブスクール

クリエイティブスクールについては、当初、自分の生活スタイルやペースに合わせて、学ぶ時間帯を午前（Ⅰ部）、午後（Ⅱ部）から選択できる制度を持った多部制単位制高校として、府内6校に設置し、1～8限までの授業展開、三修制（3年間で卒業）と四修制（4年間で卒業）の選択、多様な選択科目の開設など、柔軟な学びのシステムで不登校経験者等への学び直しの支援を実践してきた。

四修制希望者の減少、Ⅱ部入学者の多くが1限目からの学習を希望していることなどを踏まえ、平成24年度より6校中4校を多部制単位制から全日制総合学科に改編し、枠組みの一部見直しを行ったが、生徒ニーズにより的確に対応するため、さらなる見直しが求められている。

■ 志願倍率の推移 ■

○H20～24 : 0.96～1.46 倍で推移

■ 部活動加入率 ■

○H23 : 27.9%（Ⅰ部・Ⅱ部の合計）

■ 中退率 ■

○H22 : 9.2%（Ⅰ部・Ⅱ部の合計）

■ 進路状況 ■

○H19→22 : 「大学」の増加	(16.9% → 17.4%)
「短大」の減少	(8.3% → 5.8%)
「専門学校等」の増加	(19.1% → 22.4%)
「就職」の減少	(35.6% → 27.3%)
進路未定者を含む「その他」の増加	(20.1% → 27.1%)

<平成24年度からの枠組みの見直し>

【平成17年度～23年度】

【平成24年度～】

○ 多部制単位制

普通科3校（桃谷・咲洲・箕面東）

総合学科3校（成城・東住吉総合・和泉総合）

○ 全日制総合学科4校

（成城・東住吉総合・咲洲・和泉総合）

		修制	1	2	3	4	5	6	7	8	
Ⅰ部	三修	1日6時間 (3年で卒業)									
	四修	1日4時間 (4年で卒業)									
Ⅱ部	三修			1日6時間 (3年で卒業)							
	四修				1日4時間 (4年で卒業)						

Ⅰ・Ⅱ部の統合

		制	1	2	3	4	5	6	7	8	
全日制総合学科	三修制	1～8限の中から 1日6時間の授業を選択 (3年で卒業)									
		(Ⅰ・Ⅱ部の統合)									

○ 多部制単位制 普通科2校

（桃谷・箕面東）

現行制度をさらに活用

(2) 夜間定時制の課程

夜間定時制の課程については、昼間に働きながら高校に入学を希望する生徒や様々な目的や事情により、夜間という条件の中で目的意識を持って学習する生徒に就学の場を提供することを目的として設置している。

平成 23 年度以降、昼間の高校への進学率が上昇する一方、夜間定時制の課程の平均志願倍率は、公立全体で 0.6 倍、府立全体では 0.5 倍台で推移している。

■ 志願倍率の推移 ■

○H20～24 : 0.54～0.87 倍で推移

■ 部活動加入率 ■

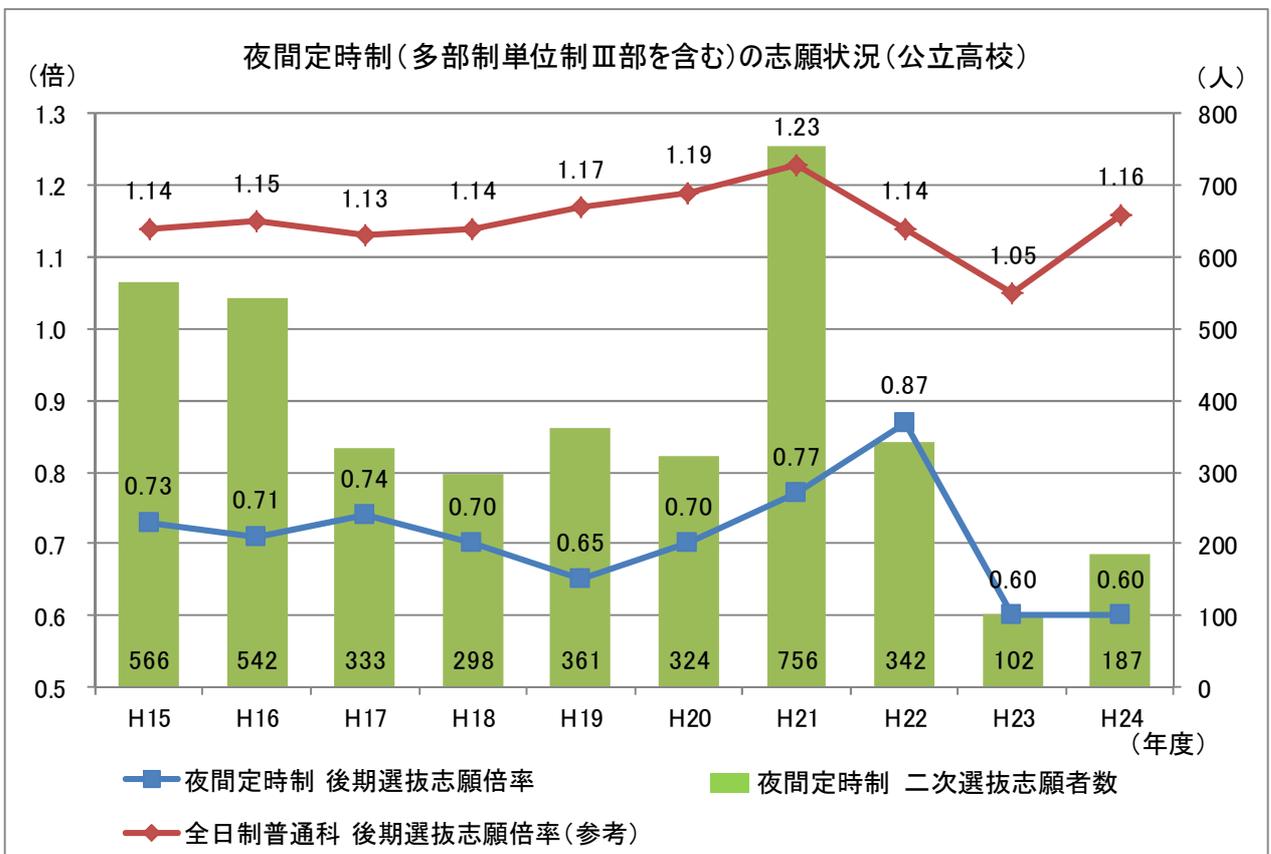
○H23 : 33.7%

■ 中退率 ■

○H22 : 13.8%

■ 進路状況 ■

○H20→22 : 「大学」の減少	(4.6% → 4.3%)
「短大」の増加	(2.1% → 2.6%)
「専門学校等」の減少	(9.6% → 8.7%)
「就職」の減少	(32.9% → 32.4%)
進路未定者を含む「その他」の増加	(50.9% → 51.9%)



(3) 通信制の課程

通信制の課程については、全日制・定時制の高校に通学することが困難な者に対して、高校就学の機会を提供することを目的として、大阪府内の公立高校においては、府立桃谷高校に「昼間部」と「日・夜間部」の二部(ともに単位制普通科)を設置している。

桃谷高校は、通信制の課程に加え、多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部と夜間課程のⅢ部を併置している。

昼間の高校への進学率は社会経済情勢の変化の影響を受けるが、通信制の課程への進学率は微増傾向が続いている。また、桃谷高校の「昼間部」の志願状況は、高倍率で推移している。

